

第 34 回健全財政推進区民懇話会 議事要旨

日 時：令和 6 年 2 月 8 日（木）14 時 30 分～16 時

会 場：区役所本庁舎 4 階 第五委員会室

出席者：座 長 白木 三秀 専門委員（早稲田大学名誉教授・国土館大学大学院客員教授）
委 員 青木 香保里 区民委員
(五十音順) 江原 春美 区民委員
棚橋 公夫 専門委員（公認会計士）
間瀬 恵二 専門委員（企業経営者：㈱不二製作所代表取締役会長）
横山 巖 専門委員（企業経営者：東工・バレックス㈱取締役会長）

議事要旨：

- 1 開会
- 2 区長挨拶
- 3 白木座長挨拶
- 4 今後の施策と新年度予算について
- 5 共生社会ビジョンの実践に向けたアクションプランの取組みについて

（区からの説明）

令和 6 年度の新年度予算については過去最高額を計上した。特に、一般会計は前年度比の伸び率が 2 桁となっており、これは 42 年ぶりのことである。「ひと」と「まち」をキーワードとして、ソフト・ハードの両面で施策を展開するための積極予算とした。

主要な新規拡充事業としては、耐震化に関する助成額の引き上げや、区立施設 231 か所の屋外への消火器の設置、災害時の安定した通信とリアルタイムの情報収集を可能にするための仕組みの構築など、区民の生命・財産を守るため、地震対策をはじめとする災害対策を強化していく。

また、結婚や出産、子育てを希望する方がその望みを叶えられるよう、順次展開してきた「えどがわ 50 の子育てプラン」についても、新たな出会いの場である「マッチングアプリの利用支援」や、多様なニーズに対応するための「区立保育園での休日保育の実施」、子育て世帯の孤立化を防ぐための「保育園等での未就園児定期預かり事業」といった新規事業を実施する。今後も、ライフステージに応じた切れ目のない施策を、体系的に進めていく。

その他、区立小・中学校における区独自の学力調査の実施や、読解力向上のための新聞の配備など、子どもたちの学力向上のための取組みを行う。また、生涯を通じた歯と口の健康づくりのサポートとして、保育園や小・中学校での「フッ化物洗口の実施」や小・中学生への「歯ブラシ配付」など、子どもたちへの支援をはじめ、歯科健診の受診が難しい高齢者や障害者の方々のための「訪問・移動支援」などを実施する。

令和 3 年度に「ともに生きるまちを目指す条例」、4 年度には目指す 2100 年のまちの姿を描いた「共生社会ビジョン」、5 年度にその実現に向けた「アクションプラン」を、多くの方の声をもとに作り上げてきた。令和 6 年度は、これらを実践する年としていく。

(主な意見の内容)

<新年度予算について>

思いやりを持った予算編成だと感じた。区全体として、思いやりを持った対応をしていくことが、よりよい区の実現に繋がると思う。

<ビジョン、アクションプランについて>

世の中の変化のスピードは非常に速いため、時代に合わせてビジョンやアクションプランなどの計画も柔軟に変更していくべきである。

<屋外への消火器の設置について>

防災用品を備える家庭も増えてきているが、例えば消火器についても、どのような期限で入れ替え、処分をしたらよいか周知や助成があるとよい。

<歯と口の健康づくりについて>

子どもに対するフッ化物洗口や歯ブラシの配付など、区が行う施策も有効だが、学校で歯科健診を受けた後の歯科受診など、保護者の理解も必要だと考える。

<学力向上について>

子どもの学力については、昔と比較すれば改善している。今後もどのように変化するのが動向を見守りたい。

塾に通わせるのは行き帰りの安全面などに不安な部分もあるため、つまりいた科目があるときに、学校で放課後補習教室が受けられることはとてもありがたい。

学校への新聞の配備について、紙の新聞には「一覧で内容を知ることができる」「記憶に定着しやすい」などのメリットがあると言われるが、一方でデジタルにも「知りたい情報をすぐに手に入れることができる」などのメリットがある。それぞれのメリット・デメリットを活かして、適切に情報を得る力を付けられるとよい。

<その他新規施策について>

新規施策の中に、イベントにおける廃棄物減量のためのリユース食器の利用促進があるが、家庭から出る一般廃棄物についても、ごみ減量の意識を定着させていくのは難しいと思われる。各家庭に対しても、継続的にごみ減量を周知していけるとよい。